

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を玄関及びユニットの正面に掲示し、日常的に家族や職員が目にする事が出来るようにしている。また入居時や相談時にも家族に説明している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員が毎日目にする所に掲示している。職員全員が理念を理解しているか会議などで確認し、ケアに迷った時には理念に沿ったケアにとり組むなど日々のケアに生かしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	相談や入居時に説明している。また、日々の生活の中で理念に沿ってどのような取り組みをしているかも説明している。地域に向けた新聞も紹介している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームの前を通り掛かった方、散歩の時の挨拶はこちらからするように心がけている。		気軽に立ち寄って頂けるような親しみやすい関係作り。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事の積極的参加(大掃除、お祭り、資源回収の協力)につとめている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で地区の民生委員の方を通して地域住民の中で認知症に限らず介護方法や健康管理などでの相談を受けることを、お伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との信頼関係を持つ事に努め、意見や不満などが言いやすい雰囲気、環境作りに努めている。思った事が言えない、表現できない方には職員が気が付くように日々の様子をきめ細かく観察している。気になる事や意見があればユニット会議で検討している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	隔月に「きたのくにかたより」を発行し、日々の生活の様子や健康状態、受診状況、ホームでの出来事や職員の異動なども報告している。健康上の変化や緊急の受診などは電話で速やかに家族へ連絡・報告している。金銭出納については毎月請求書と共に領収書や帳簿の写しを全て送付している。面会時は家族に気が付いたことを伝えたり、要望を聞くなど声を掛けている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には家族に気が付いたことを伝えたり、要望を聞くなど注意をしている。ホームに対する要望などのアンケートの実施も行った。面会簿にご意見・ご要望の欄を設けている。		家族と職員がコミュニケーションを持つことで家族が思っている事、意見、苦情を言いやすい環境作りに努める
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務に関するアンケートや、ユニット会議、個別面談などでの意見を聞く機会を持っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に合わせて、相談して柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者のダメージを十分理解しており、最小限にするよう十分配慮している。必要時は各ユニット同士で十分な話し合いを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実践者研修や管理者研修、希望の研修、その他専門職の研修にも参加している。		介護の知識、技術のレベルをアップさせる取り組み(資格の取得など)
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	恵庭市のグループホームネットワーク会に加入しており施設長と管理者が参加		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	思いや悩み、意見を言いやすい環境作りを心がけている。日々の勤務の状態をよく見てこちらからの声も必要と考えている。		何がストレスになっているのか問題解決策について話し合いを増やすよう努力する。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	自己啓発を促すための研修会の参加、会議などでは仕事に対する意識を高め合うよう努めている。また、管理者を通して職員の気持ちの把握に努めているが、不自信や意欲が損なわれないよう必要な説明や書面での対応にも努めている。勤務態度をもとに昇給や社員登用、資格を持つ職員には資格手当の支給など、意欲や向上心が持てる処遇にも努めている。		個々の良いところを引き出し意欲を持ってもらう。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の電話相談や見学の際に不安な事、困っている事などをしっかり聞き、どんな生活になるのか、どのような支援が出来るのか具体的なイメージが湧くような説明に留意している。		
24 初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に施設関係者やケアマネ、ご家族が事前相談し、実際の見学の際にも不安な事、困っていることなど意見や希望を十分聞く時間を設けている。また、医学的なことについては施設長から解りやすいような説明を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の時十分な話し合いをし、対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	無理強いすることなく、自分がその方本人なら今どういう気持ちでいるだろうということを感じながら見守りし、サービスを進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活する上での時間、空間を共有しそこに人が居るのが自然と思えるよう努力している。常に自分の身に置き換え不快な事、心地よいことを感じながら接している。人生の大先輩として尊敬し共に過ごす時間を大切に思っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の願いや喜び悲しみを家族と共に分かち合い本人にとって一番快適な生活が送れるよう考え相談出来る関係を築けるよう努力している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人を思い共感できる関係者として家族を理解し、良いつながりができるよう心がけている。ご家族の面会時は本人の近況をお伝えしたり、家族の希望を聞いたり、一緒に住まれていた頃の情報などを話す機会を持つ事を心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的に発信しているお便りなどで本人の状況をお知らせしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ユニット会議、日々の情報交換などで常に把握している。利用者が穏やかで住み心地が良い環境作りをこころがけている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	本人家族の状況を考慮しながら、退所されたかたへ手紙や電話をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。			センター方式のシートを活用する。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活の情報について家族や病院等から情報集収に努めている		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活パターンの把握に努め、申し送りをしている。本人の状況に変化があった場合は、何が影響しているのか把握する為センター方式のシートを活用し総合的な把握ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や職員に情報提供をしてもらい、計画作成に当たっている。会議の時や適宜状態の把握を行い計画に反映するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々のケアの中で情報提供を職員と介護支援専門員がする事により本人に満足して頂けるような計画作成の見直しができるよう努めている。		計画説明時、本人、または家族ともしっかり時間をかけてより良いケアが出来るよう話し合いをもつ。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別記録の情報を生かしながら実践に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人家族の意向を考慮し、柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	全体的な取り組みとして、消防、警察、ボランティアなど地域の協力を得ながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点では利用はしていない、必要が生じれば検討する。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な恵庭市包括ケア会議に出席し、研修や講演にも参加したり、日常的にも電話での情報交換を行うなど協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師と職員がそれぞれの専門性を生かしながら健康管理を行っている。また地域の医師や訪問看護師と連携し24時間連絡体制、緊急時に受診、往診をしてもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科の協力病院があり定期的、必要時の受診相談や治療に関する相談の支援をしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師を確保しており、日常の健康管理を地域の医療機関と連携し支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と常に連絡連携に努めており、早期退院へ向けての支援を行っている。医師からの状況説明やインフォームドコンセントがある場合は、看護師が家族と共に直接医師から話を聞いている。判断に困る時は本人・家族へ説明の追加や、本人・家族からの希望も伝えるなどの支援をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホーム全体としては重度化した時の指針を設け、入居時に説明している。必要時は家族と話し合い、医師に状況を伝え変化に対応できるような体制を作っている。2階ユニットではすでに看取りに向けたケースが発生し具体的な動きをしているが、1階ユニットではまだ全員が把握出来ていない。		「看取りケアマニュアル」の周知を図り、2階ユニットでの実際の動きを伝え1階スタッフ全員が情報共有できるようにする。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の把握や本人・家族の意向を全員が把握・理解し、医師とも相談しながら支援を進めている。		スタッフ全員が内容を理解し支援出来る指導、体制作りをする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えによる不安や戸惑いを職員が理解した上で住み替えが必要な場合は情報収集を行い家族との相談を経て具体的な支援策の検討を交えた話し合いを行い実施をしている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	記録はイニシャルなど個人を特定出来ないよう工夫をしている。言葉掛けや対応については出来ていない職員もいる。		会議、個人面談などで話し合いを持ち改善していく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が決められるような支援を行っている。意思表示がうまく伝えられない方には「はい、いいえ」での返答、首ふりなどを促す。言葉にするのに時間が掛かる方にはあせらずゆっくりと意思疎通が出来るよう心掛けている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく本人の考えを優先し無理強いしないよう一人ひとりの希望に沿った過ごし方が出来るよう取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	衣服は清潔に、出来るだけ本人の望む衣服を選んで頂けるようなケアを心掛けていく。理容、美容院には家族と相談の上、訪問、希望の美容院に行ってもらっている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	職員全員が一人ひとり出来る事の情報共有しながら簡単な調理や盛り付けなど会話を交えて一緒に食事作りをしている。		皆さんで出来る献立を取り入れて楽しい食事作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在たばこを吸う方は居ない。酒は行事の時に低アルコールのビールを提供している。おやつは基本的には皆と一緒に食べているが、家族の差し入れなどは自由に食べて頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	センター方式のシートや介護記録を参考にして排泄パターンを確認したうえで、状況にあった対応をするよう心掛けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在はほとんど職員の都合で午前中に実施している。身体介護度が高い方が多い為個々の都合に合わせての入浴は現状では困難である。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調の観察と日中の活動を把握し、生活のリズムを整えている。落ち着いた職員の対応、家具の配置、などに気配りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ここで必要とされている自分を実感して頂けるよう過去にしていたこと、今出来る事を情報収集し引き出して差し上げるお手伝いをしている。ボランティアによる催し物や季節の行事など家族も交えて楽しんでいただくよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方には本人管理として高額ではない金を持っていただいている。その他はホームで管理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ、外で食事やおやつなど外に出る機会を多くもつようになっている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段の会話の中から希望を引き出し願いを叶えるよう努めている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は取り次いでいる。手紙は文字が書ける方には家族の誕生日などにお祝いカードを書いてもらい面会時に渡している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問して下さった方が気兼ねする事なく本人も普段通り楽しく過ごせるような干渉のない対応を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が周知しており、正しい認識のもと実践を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事による弊害は十分に理解しているが、最近1階ユニットで利用者が行方不明になったため、再発防止のため家族の合意を頂き、一時的にユニット入り口の施錠を行っている。本人用GPS装置のレンタル、ホームの玄関にアラーム設置したので、近々本来の姿に戻す予定である。居室に関しては開放している。玄関は建物の構造上外部からの侵入防止のため、施錠を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士の声掛けを習慣にし、所在確認様子の把握をしている。夜間は定期的な巡回を行い必要な時は回数を多くしながらも安眠できる配慮をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険度の高いもの意外は見守り強化し、対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットが生じた場合は申し送りや回覧で全員に周知を図り原因や具体策を出し事故につながらないよう取り組んでいる。また安全対策委員会がありヒヤリハットが2件続いたら召集し、会議の中で該当利用者のみならず、利用者全員の状況把握の見直しと対策を講じ、事故防止に向けた対策に努めている。 消防署による火災訓練の実施、スプリンクラーの設置。 地震、大きな災害時の地域参加の訓練は実施していない。		地域参加型の訓練の実施。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	それぞれのマニュアルがある。急変が考えられる場合の個別の対処方法も記録しており夜間にも看護師から連絡を入れ状況に応じた対処法を伝えている。また、応急手当の研修にも参加しているが訓練は行っていない。		職員全員が応急手当の実践が出来るよう研修参加する。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の際、近隣住民に声掛けし参加をお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や緊急であれば電話、計画作成書の説明時、お便り等で話し合いの機会を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>日々の中でもっと定期的に皆で体を動かす機会を増やしていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>マニュアルに沿った実施をしている。外部の方にも掲示、声かけの対策を実行している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具等は毎日塩素系漂白剤で消毒、布巾は毎食後行っている。冷蔵庫は毎週掃除を徹底しそのつど賞味期限の確認を実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先はスロープになっており十分な幅がある。ホーム前には季節の花ややさいの苗も植えていつでも観賞できます。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁にはイベントや日常生活などの写真や利用者が作った作品を掲示している。室温、照明の調整も小まめに行っている。音楽も口ずさみやすいものや、癒される音、パーキンソンに効果のあるものなどいろいろ試している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの位置の工夫、座席の気配りに気を付けている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたもの、思い出のある家具や小物に囲まれた部屋作りをしている。足元には物を置かずつねに安全確保にも心がけ、毎日の掃除で清潔に生活して頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や空調を使った換気を行っている。朝の掃除の時、冬も毎日1回は外気を取り入れている。排泄後の臭気の除去はすぐ外気を取り入れ、必要に応じて消臭剤も使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

今まで暮らしていた環境を大切に、生きがいを持ってその人らしい自由な生活を送れるように職員が利用者やそのご家族との関わりを大切に身体的処遇と心の安定に努めている。地域の方とのふれあいや交流を積極的に進めている。運営推進会議も軌道に乗り、地域の方からの意見を多く聞けるようになってきた。また、町内へ向けた「北くに新聞」の回覧は、「楽しみしている。頑張っているね」との声を頂いている。地域のボランティアさんも3名登録していただき、違った視点からの利用者様との交流を深めて頂いている。平均要介護度は徐々に重くなっているが、スタッフが利用者様に寄り添う気持ちを大切にすることで、利用者様一人ひとりの力を見極める事ができるようになっている。そして、利用者様が最期まで「自分らしく充実した生命を全うすることができる」よう、終末期までも含めたトータルな支援のため、事業所全員はもちろん各関係機関への働きかけをしながら、日々努力している。